

令和7年度おかやま協働のまちづくり賞応募用紙

令和 7 年 8 月 28 日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 たけべ部実行委員会
氏 名 平田 慎一

令和7年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

募集テーマ：「子どもと一緒に未来を描けるまちづくり」

取組の名称	中学生が地域と自分の未来を描く場づくり
取組の概要 インターネット投票を行うサイトにそのまま掲載します。 今年のテーマとの関連がわかるよう、目的及び取組概要、アピールポイントを300字（句読点含む）以内に記載してください。	岡山市北区建部町で行う本取組は、中学生・大学生・大人が円になって対話を行う「たけべ中学生だっぴ」によって、自己承認力やコミュニケーション力を育み、将来像への気づきや挑戦意欲を高める場を提供する。また、だっぴで得た刺激や学びを日常に落とし込むため、駅清掃や地域マルシェ出店、PR 動画制作などを中学生自身が企画・実施し、大人は伴走者として助言や環境整備を行う自主的な地域活動「たけべ部」を毎月開催。中学生の挑戦力や協働力を育むとともに、地域とのつながりを深める。
成果・効果 取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などを書いてください。	「たけべ中学生だっぴ」は、2017年から毎年一回開催し、2025年度で第9回を数える。多様な大人や大学生との対話を通じて、学校だけでは得られない学びや価値観に触れることができ、中学生が将来を具体的に考えるきっかけとなっている。直近の建部中学校の立志式では、「だっぴを通じてコミュニケーションの大切さを学んだ」「だっぴで出会った大人の姿から、充実した人生を歩みたいと思った」といった発表があり、活動が中学生の考え方や将来観に確実に影響していることがうかがえた。 「たけべ部」は2018年の発足当初、参加する中学生は平均4～6人と小規模だったが、継続する中で参加者は着実に増え、現在では少ない時でも10人以上、多い時には28人と、中学校全体の約35%以上が参加するまでになっている。一度でも参加した生徒も当初10%未満から、現在では全体の約50%に拡大した。これは、中学生が主体的に活動を決められる仕組み、大人が支援役に徹する安心感、「だっぴ」の対話を日常につなげる継続性があったためである。さらに、地域行事やマルシェへの参加により、中学生の姿が地域に見える化され、共感や応援が広がった。 その結果、中学生同士のつながりが強まっただけでなく、地域住民や団体も「応援する側」から「共に活動する仲間」へと意識が変化した。世代を超えた協働が生まれ、地域全体に新しい活力と学びの循環が育まれている。「たけべ中学生だっぴ」と「たけべ部」は、子どもと大人が共に成長できる地域モデルとして、確かな波及効果をもたらしている。

●次の書類等を添付してください。

①〔様式1〕協働による社会課題解決の取組の内容

②〔様式2〕取組実施団体概要書

③写真等取組イメージ画像の電子データ（1枚）

インターネット投票を行う際のエントリー一覧に使用します。エントリー一覧は、応募順（事務局受付順）に掲載します。

④取組内容や成果、協働の役割などをわかりやすくまとめたシート（デジタルデータ）1枚

シートをもとに、事務局でポスターを作成し、展示等を行います（シートの作成が技術的に困難な場合は早めにご相談ください。シートづくりをお手伝いします。）

⑤その他取組の説明資料：A4で2ページ以内の資料を添付できます。

※提出していただいた書類等はすべて審査の対象となり、〔様式2〕以外は原則、ホームページ等で公開します。

〔様式 1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	中学生が地域と自分の未来を描く場づくり
テーマとの関連	◎取組とテーマが合致している点を書いてください。 本取組は、中学生が主体的に地域活動に挑戦し、大人が伴走する形を通じて、「子どもと一緒に未来を描けるまちづくり」を具体的に体现している。子どもたちが自分の考えを整理し、地域とのつながりを深めながら挑戦するプロセス自体が、テーマとの直接的な結びつきを示している。
取組の目的・目標	◎取組の目的・目標を社会課題の具体的な状況をふまえて書いてください。 岡山市北区建部町の人口は岡山市との合併が行われた 2006 年で約 6400 人、たけべ部の活動を始めた 2018 年では約 5550 人、2025 年 6 月末時点では 4848 人と人口減少に歯止めがかからない状態で、働く場所も少なくなり、働き盛り世代の流出が続いている。 とくに、中学生が日常的に関わる大人については家庭と学校にほぼ限られるなど、中学生自身が将来の目標ややりたい大人像を描きにくいではないかという人口減少問題と連動した課題があった。また、同地域には学習塾が少なく、子どもたちの学習環境には制約がある。その影響もあってか、岡山市街の私立中学校を受験する人数が増加傾向にあり、唯一の公立中学校である岡山市立建部中学校の生徒数減少は一層顕著になっている。 子どもたちが地域で挑戦し学びを重ねる機会が減ることは、自己肯定感の低下や地域への愛着の希薄化につながる大きな課題である。 建部町には高等学校が存在せず、中学校卒業をもって地域教育の影響は途切れてしまう。人口減少そのものを食い止めることは困難であるが、高校進学を機に建部を離れる中学生の心に、地域で得た学びや経験を残すことはできると考えた。 本取組は、中学生が地域活動に主体的に参加し、大人が伴走する仕組みをつくることで、子どもが自分の将来像を考える力を育み、同時に地域への誇りやつながりを深めることを目的としている。さらに、中学生と大人が共に活動を重ねることによって、世代を超えた協働力を高め、子どもと大人が共に未来を描けるまちづくりの基盤を築くことを目標としている。
取組の内容	◎取組の内容について具体的に書いてください。 1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数など 対象地域は岡山市北区建部町。対象者は岡山市立建部中学校に通う中学生 70 人、中学校の関係団体や町内会連合会、中学生の背景にある保護者や地域住民も含め建部町地域の人口約 4800 名とする。 2 活動内容、実施方法など 「年一回の活動」と「毎月一回以上の定期的な活動」の二つの活動がある。 一つ目は中学生・大学生・大人が円を作ってグループでフリットークを行う「たけべ中学生だっぴ」である。「だっぴ」とは NPO 法人だっぴが行っている、自己承認力やコミュニケーション力を育むことができるフリットークプログラムであり、建部地域が内包していた「中学生が将来の目標ややりたい大人像を描きにくいのではないか」という難問に対して明確な対策ができると期待して取り組んでいる。建部中学校では 2017 年の初開催以降、年に 1 回継続して実施している。 二つ目は、たけべ中学生だっぴで得られる刺激や体験を日常につなげるため、2018 年に中学生の自主的な地域活動の場として立ち上げた「たけべ部」である。「たけべ部」は、中学生が主体的に地域活動に参加できる自由参加型の場で、毎月 1 回以上定期的に開催している。駅清掃や地域マルシェへの出店、PR 動画制作など、地域資源を生かした活動は、中学生自身が企画から実行まで担い、大人は伴走者として相談や環境整備を行う。中学生は日常的に挑戦しながら自律的に考え、判断し、行動する力を養い、異なる世代や価値観との関わりを経験することで協働力やコミュニケーション力を育むことを狙いとしている。 さらに、たけべ部の活動が拡大するにつれて、関わる大人や地域団体の数も比例して増加している。中学生の発案が地域住民を自然に巻き込み、結果として多様な人々との協働や連携が広がっていく点も、この取組が持つ大きなメリットである。 3 工夫した点や取組の特徴 本取組は「たけべ中学生だっぴ」と「たけべ部」の二つから成り立っている。 まず、本取組を語る上で欠かせないのが「だっぴ」の経費問題である。 2017 年に実施した第一回たけべ中学生だっぴは、岡山市市民協働モデル推進事業として採択され、経費負担なくスムーズに開催できた。しかし、第二回以降は取組に対する補助等もなく、開催に三十数万円の費用が必要となり、クラウドファンディングや寄付の呼びかけなど資金確保に大きな課題を抱えた。 「だっぴ」は、繊細で感受性豊かな中高生を対象としたトークプログラムである。そのため、安心して会話できる場をつくるスタッフの配置や、参加者を傷つけない適切な対話を行うための研修が欠

	かせない。加えて、研修を受けた大学生ボランティアの調整、アンケートの実施と集計、報告書作成など、多くの事務作業も必要となり、これらは削減できない“中学生を守るためのコスト”であった。 そこで、継続開催の過程で NPO 法人だっぴから運営ノウハウを引き継ぎ、研修を受けた大人が多数参加する体制を整えた。また、アンケート集計や報告書作成などの事務作業を実行委員会が担うことで、人件費・研修費を大幅に抑制し、現在では数万円程度の負担で開催できるようになっている。さらに、地域の有志や建部中学校、地域団体が協働して運営する仕組みが確立され、地域主体の安定した継続性を確保している点も特徴的である。 また、本取組の最大の特徴は、単発で終わりがちな「たけべ中学生だっぴ」での気づきを、継続的な学びと成長へつなげるために「たけべ部」を創設した点にある。だっぴで得られた刺激や将来像への気づきを、日常的な挑戦や地域活動へと落とし込むことで、学びの定着と実践を促している。 さらに、たけべ部では「中学生が主体」という理念を徹底している。活動内容や目標の設定にとどまらず、例えば地域マルシェに出店して得た売上金の使途についても、中学生自身が議論し決定する仕組みを導入している。大人は助言や環境整備に徹し、最終的な判断権限を中学生に委ねることで、挑戦を通じた自己承認や自律性の育成を図っている。 このように「だっぴ」と「たけべ部」が一体となることで、中学生は一過性の体験にとどまらず、日常に根ざした自己成長と地域とのつながりを積み重ねることができる。そのプロセスにおいて、地域の大人や団体を自然に巻き込みながら協働が広がっていく点も、本取組ならではの独自性と強みである。 ◎取組をWEB等で告知している場合はそのURLを書いてください。 https://www.facebook.com/takebebu	
取組の実施期間	始期： 2017 年 4 月～	☒ 継続予定 ☐ 令和 年 月終了 ☐ 令和 年 月頃終了予定 該当するものに☑し必要事項を記入してください。
今後の活動展開など	◎今後の成果の普及や活動展開などについて書いてください。 今後は、現在の取組を継続するとともに、活動拠点である防災センターを「月1回の定例活動の場」から「日常的に中学生が安心して集える第三の居場所」へと発展させることを目指している。放課後に自由に立ち寄れるフリースペースとしての活用を計画しており、中学生が自主的に学びや交流を深める場を提供することで、地域での挑戦や自己成長をさらに促進していく。 この実現には、大人の伴走体制が不可欠であるため、オンラインで仕事をしている地域住民や、地域のボランティアに“見守り役”として関わってもらう仕組みを検討している。また、インターネット環境が未整備という課題もあるため、施設環境の改善にも取り組み、持続的に安心できる居場所づくりを進める。	

協働による効果	◎協働したことにより達成できたことや得られた効果を書いてください。 たけべ中学生だっぴの継続開催を通じて、地域の方や企業・団体など多様な大人が多数参加し、互いに会い・つながる機会をつくることを達成できた。これにより、「建部町内にこれほど多様に活躍している人がいるのか」と気づき合う場となり、地域の人的資源を再発見することにつながった。また、活動の様子を見た方が「自分も参加してみたい」と新たに関わってくださるなど、協働を通じて新しい担い手を広げられたことも確かな成果である。 さらに、地域の大人が中学生の姿を実際に見て「生徒たちは自分の考えを持ち、しっかり行動している」と感じてもらったことは、協働による大きな効果であった。その実感が「建部町もまだまだ捨てたものじゃない」という前向きな意識を実行委員会のメンバーや地域全体に芽生えさせ、協働の意義を強く実感できるようになっている。
---------	---

働団体と その役割 ※協働団体が他分野にわたっていることや、各団体の関わりの深さも評価の対象となります。 ※足りない場合は欄を追加してください。	団 体 名	岡山市立建部中学校
	団体種別	☐ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☐ 企業 ☒ 教育機関 ☐ 行政 ☐ その他（ ）
	役 割	取組の共同企画・運営
	団 体 名	たけべマルシェ実行委員会
	団体種別	☐ 住民自治組織 ☒ 市民活動団体 ☒ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☐ その他（ ）
	役 割	取組の共同企画・運営、中学生の出店・ボランティアの受け入れ
	団 体 名	特定非営利活動法人なでしこ会
	団体種別	☐ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☐ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☒ その他（NPO）
	役 割	取組の共同企画・運営
	団 体 名	ふるさと建部の財を守る会
	団体種別	☐ 住民自治組織 ☒ 市民活動団体 ☐ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☐ その他（ ）
	役 割	取組の共同企画・運営
	団 体 名	岡山市立建部町公民館
	団体種別	☐ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☐ 企業 ☐ 教育機関 ☒ 行政 ☐ その他（ ）
	役 割	活動場所の提供他、全面的なバックアップ、中学生ボランティアの受け入れ
	団 体 名	岡山市北区役所建部支所
	団体種別	☐ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☐ 企業 ☐ 教育機関 ☒ 行政 ☐ その他（ ）
	役 割	活動拠点として防災センター二階の貸与、継続的なだっぴへの参加協力
	団 体 名	竹枝学区連合町内会
	団体種別	☒ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☐ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☐ その他（ ）
	役 割	広報支援、後援
	団 体 名	建部学区連合町内会
	団体種別	☒ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☐ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☐ その他（ ）
	役 割	イベントボランティアの受け入れ、広報支援、後援
	団 体 名	福渡学区連合町内会
	団体種別	☒ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☐ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☐ その他（ ）
	役 割	イベントでの指導協力、イベントでのサポート、広報支援、後援
団 体 名	社会福祉法人岡山市社会福祉協議会北区北事務所 建部分室	
団体種別	☐ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☐ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☒ その他（ ）	
役 割	活動場所の提供、たけべ部への継続的な参加協力	
団 体 名	株式会社 小坂田建設	
団体種別	☐ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☒ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☐ その他（ ）	
役 割	たけべ中学生だっぴへの継続的な参加協力、資金提供	
団 体 名	株式会社 朝日	
団体種別	☐ 住民自治組織 ☐ 市民活動団体 ☒ 企業 ☐ 教育機関 ☐ 行政 ☐ その他（ ）	
役 割	たけべ中学生だっぴへの継続的な参加協力、資金提供	